

平成 29 年度 事業報告書

(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人 広島聴覚障害者福祉会

1. 事業の成果

[1] 特定非営利活動に係る事業

(A) 法人本部の活動

【全体総括】

2017 年度は、アイラブ作業所、ヘルパーステーションアイラブ、放課後デイサービス「手と手の広場」の運営に加え、社会福祉法人広島聴覚障害者福祉会の設立、アイラブ作業所の新施設の建設、移転等、あわただしい 1 年でした。また、放課後デイサービス2の開所と送迎の開始、障害者相談支援事業所「あいらぶ」の開所手続き、ヘルパーステーションの「生活援助特化型訪問サービス事業」のための準備など新しい事業の取り組みも行いました。

また処遇改善手当の見直しに伴い、給与規程・就業規則などの見直しを行いました。人事面ではヘルパーステーションの介護職、放課後デイサービスの指導員など新職員の採用、相談支援専門員の採用、アイラブ作業所の新職員の採用などを行いました。

アイラブ作業所では年度末の 3 月 31 日をもってNPO法人での事業を廃止し、社会福祉法人での事業を新施設で開所しました。

【法人本部の活動】

① 理事会、総会

	年月日	開始時刻	会場
第 1 回臨時理事会	平成 29 年 4 月 13 日(木)	18:30～	吉島福祉センター
第 1 回理事会	平成 29 年 6 月 1 日(木)	〃	〃
定期総会	平成 29 年 6 月 15 日(木)	〃	〃
第 2 回理事会	平成 29 年 9 月 21 日(木)	〃	〃
第 3 回理事会	平成 29 年 11 月 16 日(木)	〃	〃
第 4 回理事会	平成 30 年 3 月 15 日(木)	〃	〃

監査

	年月日	開始時刻	会場
中間監査	平成 29 年 11 月 9 日	18:00～	アイラブ作業所
2016 年度決算	平成 29 年 5 月 18 日	〃	〃

② 管理者会議

毎月 1 回の管理者会議を実施した。毎月の月次決算、職員募集の案、処遇改善案、給与規程等の見直し、法人のスケジュール等を話し合った。また法人の全体の運営状況の把握、各事業所の問題点や状態を共有し、理事会に提出する議題等を管理者会議の中で検討し、準備を行った。

③ 職員人事

- ・29 年度は、手と手の広場2の開所に伴い新職員 2 名を採用した。また平成 30 年度に向け、新たに 2 名の募集、面接等を行った。手と手の広場1の RE さんが3月31日付で定年退職した。
- ・ヘルパーステーションアイラブでは、介護職の募集をハローワークやインターネットの求人サイトに登録し募集を行ったがなかなか採用に至らず、年度の後半に常勤 1 名、非常勤 1 名を採用した。
- ・相談支援専門員は、社会福祉法人として、12 月 1 日付で1名採用した。
- ・アイラブ作業所は新施設での開所に合わせて、生活支援員 2 名を募集し採用した。

④ 将来構想検討会議

今年度は時間的余裕がないため、将来構想会議は一度も開催しなかった。今後は社会福祉法人の主催で開催して行く予定である。

⑤ 事務職員研修——法人内での研修は時間的余裕がなく実現しなかった。

(B) アイラブ作業所(生活介護事業・就労継続支援 B 型事業)

1. 創作活動・生産活動

菓子工房 ミニせんべい、黒ゴマきなこ棒、クッキー

- ・販売や注文が多く、仕事に追われる一年になったが、仲間も職員も充実していた。ただ、新しい商品開発ができなかったため、今後注文に応じることができるよう、生産力を上げていくことが課題。

- ・常時販路としては、ふれ愛プラザ、市民病院売店、土谷病院売店、中電病院売店、日赤病院売店、アステールプラザ内のラ・コントロールやローン(コンビニ)など。市役所での販売には、2ヶ月に1回のペースで参加した。またマツダふれあい会館では無人販売。他にも色々な行事等に参加し販売することができた。

縫製品等製作 靴下わっか製品、刺繍製品など

- ・今年もわっか製品作りに力を入れた。盲ろうの仲間の製作技術も向上、商品の種類を増やすこともできた。高齢者の仲間はわっかの糸切を担当した。16年度に引き続きアイラブまつりやふれ愛プラザ主催の手づくり教室で実演販売ができ、多くの人たちに興味をもっていただくことができた。
- ・課題としては、販路先をもっと充実していきたい。

アイラブ独自のグッズ製品販売 クリアファイル、アイラブTシャツなど

- ・作業所としては新たなグッズは製作していない。現在ある在庫をさばくことに専念した。

折り鶴解体作業及び再生紙製品の販売促進 ノート、メモ帳、ペンなど

- ・広島から平和を訴える製品として、折り鶴再生紙製品を仕入れ販売。
- ・おりづる解体作業は、作業所内での高齢者や知的障害の仲間の一つの仕事となっている。
- ・全国手話通訳フォーラムの参加者記念品 1500 セット作成。
- ・来年度の行事の記念品として、仲間の絵や仲間が撮った写真を取り入れたメモ帳を作成する。再生紙の活用の幅が広がってきている。
- ・カーブのロゴ入りノートが良く売れた。
- ・折り鶴の置き場所が十分確保できないことが課題。



全国手話通訳フォーラムの参加者への記念品 (1500 セット製作)

請負作業 箱折り・バック詰め・カーブV新聞エコバッグ等・小型家電解体作業・福祉会ニュー

ス発送作業など

- ・委託作業の作業量が不安定で、作業が少ない時期があった。

創愛(軽作業)

- ・作業種類(バック詰め)が少し増えたのは、良かった。

鮮寿(緩衝材づくり)

- ・シュレッダーの廃材で緩衝材を作る作業を行ったが、後半はその作業がなくなった。

丸本鋼材(小型家電製品解体)

- ・半日の限られた時間の中で解体できる数も増えてきた。この3月には9日分の作業量をこなせるようになった。一番難しいノートパソコンの解体作業ができる仲間を増やしていきたい。

天光堂(箱折り)

- ・少しずつであるが、失敗も減り仲間一人ひとりが意識を持って作業していると思う。

アイラブ作業所後援会(福祉会だより印刷・発送作業)

- ・5月、8月、11月、2月に「福祉会だより」の印刷と発送作業を行った。

中国新聞吉島販売所(カーブVバッグ製作)

- ・昨年はカーブの優勝でVバッグの作業量が多かった。できるだけ注文数には応じるようにした。また、製作に携わる仲間は少し増えたが、作業スペースの確保が大変だった。

草刈り

- ・6/26(月)新施設建設地の草刈りを行った。

夏と冬のボーナスの取り組み

- ・夏と冬のボーナス支給に向けてのカタログ販売を行った。仲間が増え、物品を置く場所が手狭となり、仕分け作業が大変となっている。また、注文の個数などの打ち込み作業や確認作業がとても大変だった。自主製品の菓子セットや靴下わっか製品の注文が多く、製作が忙しかった。

夏の収益:324,056円 冬の収益:553,352円

給料及びボーナス支払い

4/10 5/10 6/9 7/10 8/9 9/8(夏のボーナス支給も) 10/10 11/10 12/8 1/10 2/9(冬のボーナス支給も) 3/9

廿日市の農作業

- ・ろう高齢者の協力を得ながら廿日市津田の畑作業を行った。仲間や職員は主に土曜や日曜に参加した。開墾、草を取り、水やり、種や苗植え。筍、梅、山椒、なす、ピーマン、ジャガイモ、玉ねぎ、らっきょう、ふき、サニーレタス、水菜などの野菜を収穫。販路が課題。
 - *あいサポート展で仲間の作品が佳作として入賞。県立美術館とふくやま美術館に展示された。
 - *広陵町(奈良県)靴下振興特別委員会主催のリサイクル作品展で靴下わっかの製作品(座布団3点)が特別賞をいただいた。
 - *IT講座(1/12、1/19、1/26)希望する仲間が参加。手話通訳を個人派遣でそれぞれ依頼してもらい情報保障。

2. 利用者自治会「スマイル会」の取り組み

- ・学習会の充実、話題や情報提供。

【役員会】 毎月1回

【編集会議】 新聞発行前に会議を行った。

【行事】 花見4/3(月)納涼会8/25(金)

【日帰り旅行】 山口県ときわ公園 10/20(金)

【みんなの学習会】 月1回⇒仲間と職員が交互に担当 外部講師(広島市スポーツ協会):6/30(金)「ウォーキング」(吉島福祉センター)

【手話学習会】 隔週水曜日

【なるほど学習会】(ミニ情報)隔週水曜日

【盲ろうを生きる上映会】12/4 吉島福祉センターにて。盲ろう者の仲間だけの参加とし、広島盲ろう者友の会の通訳介助者をお願いをし、映像と音声の通訳を保障して上映会を開催。

3. 家族との連携

- ・5月～6月にかけて28年度の総括及び29年度個別支援計画について本人や家族と面談。

- ・家族のつどい

6/4(日)家族9名参加 内容:①年間の事業報告や事業計画等について説明 ②施設建設について意見交換

- ・第12回アイラブまつりでは、家族会として手作り品や野菜等の販売を行った。

4. 販売活動

- ・販売の参加者が固定することが多かったので、調整が必要だと感じた。定期的な販売(ふれ愛プラザ、市役所、損保ジャパン)に参加し、仲間自身でお釣りの計算や商品の受け渡しなどができるようになってきた。
- ・ディスプレイ用の新しい籠や折りたたみの棚などを購入し、ディスプレイもしやすくなった。
- ・売り上げは年間を通し、全体的には伸びた。イベント参加費を必要とする販売では売り上げが少ないようである。(広島市就労支援センターなどとのつながりも必要なので、今のところは続けていきたい)クッキーや靴下わかっか製品は良く売れた。
- ・ふれ愛プラザでの工作教室(7/27)に靴下わかっか製品で参加。
- ・新商品開発を次年度は検討していく。

5. 各主催行事

①第12回アイラブ作業所まつり開催

・日時:2017年10月1日(日)10時～15時30分 会場:吉島福祉センター 全館

・事務局会議(全4回):5/31(水)、6/29(木)、7/27(木)、8/31(木)

・実行委員会(全5回):6/12(月)、7/14(金)、8/10(木)、9/14(木)、11/9(木)

・前日準備:9/30

・バザー物品値つけ準備:9/21⇒民生委員8名、ボランティア2名、職員2名で値つけ準備を行なった。

・例年通り会場は、センター運営者のご協力により半年前に押さえることができた。ミニ手話・触手話体験コーナー、手づくり体験を取り入れたが、好評だった。まつりへの寄付の賞品が今年も多く、抽選会の運営が大変だった。

②ろう重複障害者交流事業

・7/9(日)吉島福祉センター スポーツ交流 ろう重複障害者18名

・9/10(日)吉島公民館 お寿司を作って交流 ろう重複障害者20名

③夏季休暇、冬季休暇等

・夏季休暇 8/14～8/16 冬季休暇 12/29～1/4

・10/2(月)代休←10/1がアイラブ作業所まつりのため。

・3/26(月)～30(金)休所←新施設へ引っ越しや片づけ作業、総括会議のため。

6. 関係団体との連携

①きょうされん

・職員の中から5名の運営委員を選出し、それぞれが経営管理部会、就労支援部会、組織運動委員会、教育研修委員に所属し活動した。ただ運営委員会への出席が職員会議と重なったこともあり、出席できないことが多かった。また、利用者部会「虹の会」の担当職員を決め、仲間たちが自主的に運営できるよう補助的な役割を果たした。

・きょうされん賛助会員の減少を防ぐために、きょうされんの活動の意義をしっかりと伝える取り組みが大切。アイラブでは担当職員の取り組みで賛助会員が少しずつ増えている。「第41次国会請願署名」の取り組みも行った。

②アイラブ作業所後援会

【後援会役員会の開催】

・後援会役員会担当職員を決め、会議に参加した。後援会行事では、役割を持ち、協力することができた。

・6/4(日)の総会・後援会、2月の講演会の内容について。

・後援会PR用のDVDを作成した。

【講演会の開催】

・6/4(日)後援会総会・講演会。宮沢典子さん後援会PR用DVDを上映。

・12/9(日)「65歳問題について学習会」(講師:丸内さん)

・2/18(日)講演会「手話言語条例について」開催、講師は県ろうあ連盟理事長迫田さん。会場:吉島福祉センター

【アイラブ作業所まつりへの協力】

・実行委員会に加わり、まつり当日もボランティアとして協力。後援会PR用DVDを上映。

【バレンタインチョコの販売】

・収益は後援会活動で使うことになった。

③中区作業所連絡会

- ・連絡会の会議に仲間とともに出席し、行事企画、情報交換、近況報告等を行った。
- ・年3回行事。
- ・中区ボランティアまつり(10/28 土 中区地域福祉センター)
- ・夏の交流会はなし。
- ・冬の交流会(1/12 金 吉島福祉センター)

④広島市自立支援協議会中区地域部会「街なか交流会」

- ・3/6(火)に開催され、参加した。

⑤県就労振興センター、市就労支援センター

- ・出店、販路拡大、各種研修会や行事に参加。

⑥聴覚障害者団体・手話関係団体

- ・8/18(金)～20(日)全国手話通訳フォーラムへのボランティアや販売等で参加。
- ・2/11(日)広島県手話通訳問題を考える集会(安芸区総合福祉センター)に参加。
- ・その他広島県ろうあ者大会、耳の日大会、広島市ろうあ者大会等集会等の関連行事、研修会に参加した。

⑦全国ろう重複障害者施設連絡協議会

- ・全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会(11/25～26 埼玉)に職員2名が参加。

7. スポーツ・文化活動

- ・例年と同じく広島市障害者陸上競技大会、とうかさでのよさこい、ひろしま国際平和マラソンなどの活動に参加し、みんなで楽しむことができた。第12回アイラブ作業所まつりでは、仲間たちが創作手話劇を披露した。

8. 地域や学校とのつながり

①広島南特別支援学校

- ・ろう重複障害児者交流会やアイラブまつりの案内を校内に配布してもらうようお願いした。
- ・広ろう祭の販売(10/28)には参加。高等部卒業式に参列。
- ・見学・実習受け入れ

②地域の学校、町内会や地区社協、民生委員

- ・中島地区民児協からの依頼で5月から月1回の会合の際に「ミニ手話講座」を行い指導している。
- ・第12回アイラブ作業所まつりのチラシを吉島小学校、中島小学校、吉島東小学校、吉島中学校に配布し、協力を得た。
- ・アイラブ作業所まつりのチラシ配布で中島地区・吉島地区において回る事ができた。吉島東地区は戸別に配布はせず、店舗等をまわってポスター貼りを中心に行った。実行委員及びボランティアでは、今年も民生委員の協力を得ることができた。
- ・吉島西町内会の夏祭り(8/5 土 吉島第2公園)、中島地区社協とんどまつり(1/87 日 吉島公園)、もみじ作業所まつり(9/2 土 吉島第2公園)販売で参加。
- ・エコまつり 環ッハッハ in 吉島(10/8 日 吉島中工場)に参加。毎年アイラブが担当している50円綿菓子が大人気。
- ・矯正展(11/19 日 広島刑務所)に販売で参加。

③イオン宇品店

- ・イオン黄色いレシートキャンペーン贈呈式出席。4/11(水)
投函金額 953,628円 1%に相当する9,500円(H29年度)の贈呈を受ける。

④高齢者いきいきポイント活動団体に登録

- ・アイラブ作業所まつりや行事等ボランティアなどの活動をした方へはポイントを付与する。貢献を行っていききたい。

9. 健康・衛生

【健康管理】

1.作業所全体に対して 掃き拭き掃除の徹底と 乾燥対策

2.通所者全体に対して 手洗いうがいの奨励、バイタルチェック

⇒体重の計測を行っている。体重が増加傾向にある、また平均体重を超えている仲間は心配。

3.個別支援として

- ・足の爪白癬対処対策⇒足浴、靴下を変える。(同じ靴下を履いているので)
- ・歯磨き指導(義歯取り扱い洗浄含む)
- ・健康相談 諸々(便秘・栄養・ダイエット・運動・悩み事など)
- ・爪切り 耳垢とり支援⇒爪切りの使い方や自分の爪を切ることができるようになった仲間もいるが、難しい仲間については、今後自分で爪を切れるように支援が必要。
- ・服薬管理⇒薬を服薬する仲間が増えた。自己管理が難しい仲間の服薬管理に努めた。
- ・水虫など皮膚病を患っていることに気づかず悪化(蜂窩織炎などに)してしまうこともある。また、身体に異常があっても職員や看護師に言わず、気づくのが遅くなることもあった。仲間の身体の変化や異常に気付いたら様子を聞くなどできるだけ早めの対応をする。またバイタルチェック等で異常があれば、早めに医療機関へつなぐようにしていく。
- ・インフルエンザ予防接種を勧め、受けることができた。除菌・消臭に効果のある超音波噴霧器、加湿空気清浄機の使用も行った。
- ・健診を希望者のみであるが年1回行った。広島市中区と東区で健診を受けた。

【体力維持】 できる範囲で毎週1回30分程度ストレッチ体操を行った。

【害虫駆除】 毎月1回

【職員健診(事業所健診及び一般健診)】 1～2月に健診。

10. 防災関連

- ・自主防災点検は、5月から奇数月に点検をした。月毎チェック項目に沿って点検し、防災における職員の意識を高めた。
【防災設備点検】(法定)1回(自主)1回(ヨシダ防災)
【防災自主点検】奇数月
【通報避難訓練】火災通報避難訓練・消火訓練 9/13(水)1回のみ *中消防署職員の確認のもと行われた。
【消防計画作成変更届】4/26、8/10(職員の変更による防災計画の変更のため)

11. 設備関連

- ・1階のエアコン(20年以上経過)故障、修理が効かずレンタルで対応した。3月中旬にレンタル終了。
- ・1階の調理室の電気オープン調子が悪い。⇒新たに購入するかどうかは検討中。来年度へ。
- ・湯沸し器(10年以上経過)故障、部品交換で修理対応できるが18,000円かかる。修理後他の部位に故障が生じる可能性ありとのことで、新たに購入した。

12. 助成及び物品寄贈

助成団体	商品	助成金額
イオン黄色いレシートキャンペーン	消耗品など購入	9,500円
独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構	障害者介助等助成金(手話通訳者の委嘱助成)	1回の手話通訳につき4分の3
多山報恩会	寄附芳名板	300,000円

13. 広報活動

- ・担当職員を決めホームページをリニューアルした。フェイスブックには日ごろの活動を掲載することができた。
- ・「福祉会だより」は、5月、8月、11月、2月の年4回、毎回500部を発行することができ、封入・発送作業は仲間が仕事として行った。内容的には、例年と同じく各行事や販売に参加した仲間の感想を始め、新しい仲間や職員の紹介など掲載、限られた紙面の中で取り組みを紹介した。
- ・行事等でアイラブ作業所のパンフレットを持参し、配布した。
- ・イオン宇品店へ黄色いレシートキャンペーンのボックスを置かせていただいている。

14. 個別支援計画、モニタリング、総括

- ・4月～5月個別支援計画作成、5月～6月面談
- ・モニタリング(10/21)
- ・総括(3/29・30)

15. 職員会議、その他の会議及び研修等

- ・資質向上を目的に、年に最低一人一回の研修を保障しているが、なかなか研修に参加できない職員もいる。月2回の職員会議では、ケース検討や情報や意見交換、研修報告などを行い、時にはグループワークも試み、自分たちの支援や考え方を見直す機会も作った。また職員同士で朝礼ノートに連絡事項を記入し、職員間で情報の格差が生じないように工夫した。
- ・個別支援計画の作成、報告、本人や家族に説明。半年のモニタリングを行った。

【職員会議】 月2回土曜日午前中

【リーダー会議】今年度から組織を作った。毎月とはいかなかったが、2月に1回程度は開催することができた。各作業班、各委員会の代表者が集まり情報共有や課題を出し合うことができた。

【支援会議】 作業グループごとに適宜支援会議(ケース会議)を行った。

【法人内部学習会】

①12/9(土) 「65歳問題について」(後援会主催) 講師:九内さん(広障連)

* 国の制度の課題など根本的な問題がどこにあるのかを知ることができ、非常に良い学習の機会となった。

②12/15(金) 「介護研修」(アイラブ作業所にて) 講師:亀田さん(外部)

【職員が参加した主な研修会】

- ① 聴覚障害者関係施設等新入職員研修(京都)
- ② 集団指導(県主催)
- ③ 虐待防止・権利擁護研修会(県主催)
- ④ 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会(京都)
- ⑤ きょうされん全国利用者学習交流会(東京)
- ⑥ きょうされん県支部実践交流会「利用者分科会」「就労分科会」(広島市)
- ⑦ 広島県の手話通訳問題を考える会(安芸区)
- ⑧ 発達障がい者研修会(埼玉)
- ⑨ サービス管理責任者(介護分野)講習
- ⑩ 全国手話通訳フォーラム
- ⑪ 全国聴覚・ろう重複児施設協議会研修会(広島)
- ⑫ 全国チャージの会研修会(広島)
- ⑬ 防火管理者研修
- ⑭ 食品衛生責任者講習

- ⑮ 農福連携セミナー 12/7ー
- ⑯ 避難確保計画セミナー2/15
- ⑰ 各団体が主催する研修会

【職員面談】 今年度は年度末が引越など作業に追われ、全ての職員に行えず。
 【管理者会議】 法人本部、ヘルパーステーション、手と手の広場、アイラブ作業所の4者会議
 【理事会・総会へ出席】
 【社会福祉法人理事会及び評議員会へ出席】
 【外部へ講師派遣】

7/29(土) 全国チャージのつどい(広島市)にてアイラブの活動について報告

8/20(日) 全国手話通訳フォーラム(福山市)にて「地域で生き生きと生活するために」というテーマでアイラブの取り組みについて報告。

16. 見学訪問及び実習

- ・生協ひろしま組合員 2名見学 7月
- ・広島南特別支援学校 中学部見学 9月
- ・矯正研修所の刑務官 7月、10月、2月(4名ずつ受け入れた)
- ・市立特別支援学校 実習打合せ 9月 実習 10月
- ・広島南特別支援学校高等部、実習打合せ 1月 実習 1月
- ・国立リハ手話通訳学科学生 見学 1月

17. アイラブの家について

- ・3名が宿泊体験で利用するも、継続した生活の場にはなかなかならなかった。

18. NPO法人での事業廃止届、社会福祉法人での事業開始届を2月に提出

- ・3月31日付けで事業(生活介護・就労継続支援B型)を廃止するため、廃止届を2月に広島市に提出。合わせて新たに社会福祉法人として開所届も提出した。

19. 通所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業開所日数	23	24	24	22	22	23	23	22	24	21	22	18	268
利用者数(人)	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	468
報酬対象外(人)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
H29年度報酬対象者全体利用日数(日)	585	605	659	598	566	624	621	596	597	501	537	463	6952
H28年度報酬対象者全体利用日数(日)	598	534	648	606	575	623	624	585	553	542	603	640	7159

* 29年度 利用者退所者3名(生活介護1名、就労継続支援B型2名)、利用者増員1名(就労継続支援B型1名)

20. 課題

- ・仲間の賃金アップは継続的課題。自主製品の開発等も検討していきたい。
- ・現在10人くらいの高齢者がいるが、5人が80歳代。身体機能の衰えに応じて通所も困難になりつつある。通所を止めて家に籠るとコミュニケーション不足、身体機能の低下、認知症の併発等も懸念される。このまま作業所で維持するか、高齢のデイサービスを考えるか検討していきたい。
- ・親が自身の高齢化で将来の不安を感じている。ショートステイやグループホームなどの事業も望んでいる。

(C) ヘルパーステーション・アイラブ

Kさんが5月末に退職された後、常勤1名、非常勤1名体制になりましたが、7月には非常勤1名、10月にも非常勤1名(1月から常勤)増えました。ヘルパーの高齢化、家族の事情などにより、ヘルパーの実質稼働数が徐々に減りつつあります。

4月…4/10 A・Yさん 移動支援契約

5月…KKさん 退職

7月…MFさん 非常勤職員として採用(現在週3日勤務。30年度より週5日勤務)

9月…YMさん 登録ヘルパーとして採用

10月…YKさん 非常勤職員として採用

12月…アイラブ作業所職員研修会参加

1月…YKさん 常勤職員として勤務

2月…E・Tさん ショートステイ長期利用のため支援中止

3月…3/12 S・Sさん契約(予定) 実費契約

※介護認定・障害福祉サービス利用対象外のため、実費負担になることを本人承諾の上で契約。

3/23 T・Oさん移動支援契約(予定) 月1回の利用

他、アイラブ作業所の行事の手伝いに参加 各種会議に参加

※ 現在、ヘルパーステーションの利用者約30名の内、作業所の仲間の利用者は、

同行援護、盲ろう者 6名

移動支援 11名

居宅(家事、身体) 3名

介護保険 2名

アイラブ作業所への通所支援、余暇活動、生活支援等で利用しています。

(D) 放課後デイサービス 手と手の広場

1. 児童生徒通所実績

2018.3.31 現在

	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
	広場1	広場2	広場1	広場2	広場1	広場2	広場1	広場2	広場1	広場2	広場1	広場2
通常日	136	183	167	207	187	234	126	135	37	41	153	201
休業日	2	9	3	6	6	17	51	53	113	130	0	4
計	138	192	170	213	193	251	177	188	150	171	153	205
送迎	50	57	54	74	74	89	85	77	113	89	69	66
2016年度	253		231		278		273		244		259	

	10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	広場1	広場2	広場1	広場2	広場1	広場2	広場1	広場2	広場1	広場2	広場1	広場2
通常日	145	189	174	207	145	175	143	178	151	199	134	127
休業日	4	5	0	3	41	57	4	11	0	3	32	77
計	149	194	174	210	186	232	147	189	151	202	166	204
送迎	57	75	83	98	86	86	62	57	58	60	78	43
2016年度	291		243		243		249		210		279	

*今年度から通所保障、保護者負担減のために東方面(広島駅)、西方面(井口台)の2ルートの送迎を週3日間(月、水、木)開始した。
また、長期休業中の送迎を毎日行った。結果として小学部、中学部ともに通所は激減することはなく、ある程度安定した通所を保障できた。

2. 登録状況

【放課後デイサービス1】

2018.3.31 現在

児童・生徒	通所回数	居住地域	備考
小学部 10名	24.5 回	広島市	
中学部 9名	28 回	広島市・海田町・廿日市市	
高等部 0名	0 回		
計 19名	52.5 回		

【放課後デイサービス2】

児童・生徒	通所回数	居住地域	備考
小学部 8名	25.5 回	広島市・海田町・竹原市	竹原市の児童は土曜日を中心に通所。
中学部 7名	17 回	広島市・海田町・	
高等部 10名	16 回	広島市・大竹市	大竹市の生徒は金曜日通所
計 25名	58.5 回		

*前年度週1回の通所だった子どもが、2箇所になりまた送迎を開始したことで、週3回から5回の通所が可能になった。但し、登録しているが、通所が殆どない生徒もいる。

3. 人事

- *12月25日面接、2名採用
 YS(既卒) 2月1日から本採用常勤勤務
 NA(新卒) 4月1日から本採用常勤勤務
- *1月 Sさん 児童発達支援管理責任者の資格取得。

4. 職員研修

- *広島南特別支援学校の体育祭・文化祭を見学し、学校での生徒の様子について今後の指導に役立てるよう研修会を行った。
- ・5月27日 広島南特別支援学校 体育祭見学及び研修
- ・10月28日 広島南特別支援学校 文化祭見学及び研修
- *各種研究会には職員の希望に沿って参加できるようにした。また、研修参加後に職場で報告することによって研修内容を共有することができた。
- ・1月25,26日 児童発達支援管理責任者研修(新堀)
- *放課後デイサービス等の他団体の会議に参加・交流し、研修を行った。
- ・11月16日 自立支援協議会中区地域部会 第1回子ども部会(西川)
- ・1月18日 自立支援協議会中区地域部会 第2回子ども部会(西川)
 各事業所で行っていることの紹介
- ・3月4日 広島県放課後ネット事業所連絡会(山内)
- *手と手の広場、主催及び発表の研究会
- ・2月11日(土) 2017年度広島県の手話通訳問題を考える集いでNPO法人広島聴覚障害者福祉会として放課後デイサービスからレポート発表 テーマ「社会資源としての放課後デイサービス」
- ・2月18,19日(土,日) 2017年度全国聴覚・ろう重複児施設協議会
 「手と手の広場の取組」を発表 会場 吉島福祉センター
 広島県外から14施設17名の参加 保護者2名 計48名で盛会裏に終えることができた。
 1日目 講演「地域で暮らす ともに生きる 一元ろう学校教員の思い」
 講師 和泉正人
 2日目 レポート「手と手の広場の取り組み」
 「スケッチブックの取り組み」(福岡)
- ・3月 自己評価を行った。集計してホームページにアップした。
 保護者向けの評価表を作成して、アンケートを実施した。

5. 成果と課題

【成果】

- ① 目に見えにくい子どもたちの育ちの壁となっていた通所保障等への対処によって通所を保障できた。
- ② 週3回であるが、広島駅と井口までの送迎を開始できた。手と手の広場(2)を開所できた。
- ③ 自己評価を行い、HPにアップした。自己評価を基に2018年度に事業改善を図る。

【課題】

- ① 十分な人事ができていないので、引き続き取り組まなければならない。
- ② 質の向上と専門性に向けた研修の充実。
- ③ 送迎を部分的にしか保障できておらず、まだ保護者の送迎努力に頼っているところがあるので、十分にすること。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(円)
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業	就労継続支援B型事業 ----- 生活介護事業 ----- 作業所特別	通年	法人所在地及び周辺地域	19人	37人	63,074,774
	移動支援事業 ----- 居宅介護・同行援護事業	通年	法人所在地及び周辺地域	18人	30人	17,120,685
介護保険法に基づく居宅介護サービスの訪問介護事業、ならびに介護予防サービスの介護予防訪問介護事業	訪問介護事業					
児童福祉法に基づく障害児通所支援事業	放課後デイサービス事業	通年	法人所在地及び周辺地域	27人	44人	35,145,174

(計 115,340,633)